

中野P・たかちゃん @ 坂主字音の



国際交流基金・日本語パートナーズ / インドネシア レポート

★特別号・2016年 4月5日

2016年3月4日（金）

セルラス中野ピアザと SMKN20（ジャカルタ第20国立専門高校）の日本語クラブの学生が
スカイプで交流しました！！！！！！

インドネシアでやりたかった夢が叶いました☆☆

セルラス中野ピアザのみなさん、ご協力、本当にありがとうございます！！

最初はスカイプでできるのか、インターネット環境はあるのか、インドネシアと日本で合わせられる時間は
あるのか、いろいろ不安なことがありましたが、学校の先生、セルラスメンバーの協力のおかげで
実現することができました。

インターネットは学校のWI-FIを使用しました。最初はLL教室でスクリーンを使ってやろうと思いましたが、
インターネットの接続が悪く、一番電波のいいところを探して、職員室の前の廊下で行いました。

中野ピアザ・コーディネーターの「もしもし？」という声が聞こえると

学生たちは「お〜〜〜！」と大興奮！

小さなパソコンの画面をみんなくいついてみていました。

○交流内容

インドネシア SMKN20の学生は12人。セルラス中野ピアザからは、私の母や小学生メンバー、
ピアザに参加している留学生など6人が参加してくれました。

①まず最初に自己紹介。

インドネシアの学生は日本語で、セルラスメンバーはインドネシア語で、お互いに自己紹介をしました。

「ゆうきくん、かわいい〜v v」「アドリアン先輩めっちゃかっこいい！」など女の子たちから黄色い声が☆

②次にインドネシアから日本に留学している先輩として、アドリアン、ステファニーから日本の生活などについて話をしてもらいました。

③質問タイム。

事前に「質問考えておいてね」と学生に伝えていたので、学生は「日本でおいしいたべものはなんですか？」

など事前に日本語で考えてきていたのですが、実際にスカイプで顔をみると「インスタグラムもってますか？」

「どうやって日本に行きましたか？奨学金は？」など話したいことが出てきたり、

スカイプに映らないところで「ねね、あれ日本語でなんていうんだっけ??」

「なんでもいいからなんか話してよ〜」「ほらほら質問！」とみんな会話がしたくてしょうがないという
感じでした。

やっぱり実際に、人と対面することで話したい気持ちが膨らみますね。

④セルラスから「雪」「ひなまつり」の紹介。

ひなまつりは、ちょうどその日に授業で説明していたので、学生たちも興味をもって聞いていました。

特に歌を歌ってくれた時の反応がよかったです。私も授業で歌って紹介していましたが、セルラスのみんなが歌っているのを見て「あ、本当にひなまつりの歌があって、日本人はみんな歌えるんだ～」と思ったようです。

⑤SMKN20 より空手、サマンドانس（インドネシアの伝統的な踊り）、Kicir-Kcir ジャカルタの歌を披露。

インドネシア、日本の文化交流になり、お互いに刺激のあるいい交流になったのではないかなと思います。

帰り道も「今日のスカイプは最高だった！！」とみんなまだ興奮がさめないようでした。

○今回の交流で感じたこと

インドネシアの学生にとって、実際に日本人と話すという経験が日本への興味・関心の向上、日本語学習意欲の向上にダイレクトにつながると感じました。

きっと、日本という国がより身近になったでしょう。

そして日本語でもっと目の前の日本人と話したいという思いがわいたことと思います。

考えていた質問も「日本はどうですか？」という質問から、

実際に会ってみたら「あなたのなまえは？どこに住んでいるの？」と目の前の人に対する質問に変わりました。

目の前の相手を知ることでその人の国が近くなる。

最初はやっぱり「人と人のつながり」なんだなぁと改めて思いました。

そう考えるとセルラスでたくさんの留学生に出会えて、その留学生のみんなを通して、本当にいろんな国が近くなったと思います。

言葉を学ぶにも、文化を学ぶにもすべては人から。

人と人が会うという小さなことが、相手の文化、国を知るという大きな理解へつながる大事な一歩なのだとわかりました。



ちいさな
パソコンの画面を通して
日本とインドネシアが
つながった瞬間！

